

来期、新塾の立ち上げに向けて
熱い思いをうかがった。

新塾長紹介

4

「風林火山」

主になるのは、孫子の兵法。「其疾如風、其徐如林、侵掠如火、不動如山、難知如陰、動如雷震」(その疾きこと風の如く、その徐なること林の如く、侵掠すること火の如く、動かざること山の如く、知り難きこと陰の如く、動くこと雷の震うが如し)この旗印を掲げテーマにと熱く語る梅村氏。2年間22塾の塾長として勉強をさせて頂き、「自主性や個性を引き出しながら今まで学んできた事を塾生に伝播していく」と梅村氏。22塾では塾生はもちろんの事、特にやる気のない塾生には決して甘くはなく、多くの仲間から叱咤激励を受けながら必死に青経塾の中で学ぶ事が出来た。その3年間の中で社業にも取り入れていく事の姿勢が大切。43塾では良いことや悪いことも経験し、的確な判断力を身に付け、本質を追求する。甘やかすつもりはない。鬼に徹して、まずは講義や指導を受け入れられる環境をつくりながら無駄銭や無駄な時間を使わない事を厳しく伝えていく。「今苦しい人こそ仲間と共に学び、その苦しさから抜け出そう。そして真の経営者になろう」と新塾生への思いを力強く語られた。(第33青経塾 鈴木広行)



第43青経塾
梅村智朗 新塾長

4

「徳利」

「徳を積みば必ず利となって返って来る」塾主から教えていただいたこの「徳利」の精神が最も伝えたいことだといふ荒川氏。「当たり前のことを桁外れの情熱でやれ!」、「桁外れの情熱とは挑戦し続けることである」そのためには方向性とエネルギーが必要である。だからこそ、各自が志を明確にして卒業出来る塾生に育てたい。「本物を追求し続ける人として骨太の人間になって欲しい」と語る言葉の裏には心の底から湧き出る熱いものがあった。こつこつと成長していく人になって欲しいという思いは「免と亀で言えば、亀である」の一言に集約された。以前、人から機械的でカラーが無いと言われたこともあったそうだが、実は「人がすべてである」と考えている荒川氏。そのために「1年目は互いにさらけ出しあい、各々の個性を引き出すことから始めたい」と語る。目には映らない真髓に迫り、徳利の精神を受け継ぐであろう44塾生は人間性豊かで骨太な志の明確化とやり遂げる強い精神力を持つ人に育つに違いない。(第38青経塾 柳瀬香織)



第44青経塾
荒川雅博 新塾長

4

「夢、情熱、感動」

「夢、情熱、感動」をテーマに、第45青経塾が立ち上がる。「自分が挑戦する姿をもって、塾生たちを育てたい」と新塾にかける抱負を語った。45塾のカラーは「ガムシヤラかな」と廣瀬氏。社業を大きく伸ばすことができたのも、人がやらないことを必死にやり続けてきたからだといふ。「やる、と決意することが大切。言い訳を作らなくなるから」負けることがとにかく嫌いであるといふ廣瀬氏の性格が表れている。現役時代は、塾日に学んだことを、一つ一つ実行してきた。「目標を持ち、一步步近づいていく経営者になってほしい」と新塾生たちに思いを寄せる。また、そうあるために「何のために働くのか、家族のため、社員のため、など揺ぎ無いものを心に持ち続けてほしい」とのこと。「会社は社員を育てるためにある」といふ。社員のことをほめられるとうれしくて仕方ないという温かい廣瀬氏は、45塾生を真の経営者に一步步導いていくと強く感じた。(第36青経塾 柴田裕二郎)



第45青経塾
廣瀬直樹 新塾長

4

「心・技・体」

田口氏が新塾で目指すもの、3年後のビジョンは、様々な苦難に立ち向かえる精神力、そして豊かな心を持った経営者であり仲間ができることだ。塾主にいただいた言葉でもある「継続は力なり」は田口氏の現役3年間の基礎となった。この精神は出身塾である30塾の伝播されてきたものでもある。田口氏は水野塾長の元と、続けること、結果を出すことにこだわり現役から現在まで100%出席を達成。もちろん塾活動も積極的に関わってきた。仲間によって自分を知り、受け入れることを学んだ。真剣に向き合ったからこそ「人と心がひとつになる瞬間、気持ちを分かち合える瞬間を経験できたこと」と語る。そんな田口氏の思いを込めたテーマは「心・技・体」心を磨いて、五感を磨いて、それを体現していく。それを仲間と共に「やる」。その結果として信じ抜くことができる生涯の仲間ができ、ライバルとなる。人間味溢れる人材を輩出したいと話す。何事にも恐れず情熱を傾けて共にやり遂げる揺るぎない決意がほとばしっていた。(第3青経塾 小濱敬子)



第46青経塾
田口実 新塾長